

# 論壇

Argument



● 十勝歯科医師会 専務理事  
増地 裕幸

## 「組織論」

2022年は大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を毎週見続けた。初の武家組織の幕開けは、かなり不安定なものだった。所領が第一の御家人たちの内輪争いの連続で組織は脆弱、やがてその先には元寇なのにと気を揉みながらの日曜夜だった。

ここで本題、私たちの組織について、私見を述べさせていただく。組織の役割は多岐にわたるが、医術の錬磨と医道の高揚を掲げ公益性、学術性を持って地域へ寄与すべき存在であり、また会内では情報管理、共有、福祉厚生、親睦など様々である。しかし近年、入会率や会事業への会員参加の課題などが存在する。

以前、私は公衆衛生担当を数年務めた。その際に担当分野で組織が担うべきことは、個人ではできない行政・多職種組織との連携協働、地域住民への啓発などに先見的戦略を持ってあたり、その中で会員各々の医療活動推進に繋がることを目標と定め、そして現実の壁にさいなまれた。また、口腔衛生不良と口腔乾燥はインフルエンザ感染リスクと行政との協議ではたびたび言及、住民のための意識共有に努めたが、それ以上展開することはできなかった。

そしてこの3年間、日本は元寇や黒船級の海の向こうから来たパンデミックに見舞われ、社会の混乱と疲弊を経験させられた。私たちの職域でもコロナ禍当初は、感染リスクが高い環境といわれたが、実際はそうではなかった。それは標準化された各医院での感染対策が大きな理由といえる。

しかし今、私たち国民は感染症を経験し、その中で口腔管理の有効性にアンテナを少し伸ばす人が増加している気がする。前述した口腔内の持続的炎症と口腔乾燥も誘因となる咽頭、扁桃の炎症は、ウイルス感染リスクの一つと考えられるが、ならばこれから私たちの組織と各会員が連動し、感染症への意識が高まった地域住民に対し、本領発揮の仕事を進める今が好機と考える。

以前、山田 宏 参議の言葉に「私がジャングルを切り開いて、比嘉議員がそこを舗装していく、そんな役割と理解している」とあった。それは私たちの組織と会員の役割分担にも似ているようにも聞こえた。考察すると組織は会員の集合体で、その会員は組織を動かし、上手に組織を利用し、自利利他の精神を持って切磋琢磨しながら各医療活動に邁進し地域貢献する、これが組織に属する大きな強みではないだろうか。

いずれにしても私たち会員、そして組織が一所懸命する対象は、「いざ、地域住民」ということを忘れてはならない。